

平成 28 年度 学生による授業評価結果報告

1 の「学習内容のレベルは適切でしたか」という項目について、七割半の学生が「適切と回答しています。この数値は昨年をわずかに上回るもので、昨年度の授業評価を受けて、各教員の授業内容のレベルアップの努力が反映されたものと考えられます。そのことは、8 の「教員は授業に対して意欲的だったと思うか」という項目について、「そう思う」「ややそう思う」という回答が、全体の九割強となっていることから確認されるでしょう。ちなみに、昨年度は八割以上にとどまっていました。また、4 の「学生の理解度を確認しながら授業が進められていましたか」という項目に対して、昨年度は「どちらとも言えない」「あまり思わない」が四割以上の回答がありましたが、本年度は三割弱となり、その分、「そう思う」「ややそう思う」の割合が上昇しています。この点、来年度はさらなる数値の改善を目指したいと思います。6 の「教員の説明や黒板の使い方、書き方はわかりやすいものでしたか」という項目については、回答の分散が認められますが、依然として「あまり思わない」「思わない」が二割弱となっており、この点、引き続きの改善に努めていきたいと思います。

履修学生自身については、12 の「この授業への出席回数はどれくらいでしたか」という項目で、「15～13 回」が八割となっており、資格課程の学生の真面目な学習態度がうかがえます。また、近年のシラバスにおいて重要視されている予習と復習については 13 の項目が注目されます。すなわち、「宿題・課題、予習・復習にかけた勉強量はどれくらいでしたか」という項目で、「ほとんどしなかった」が五割弱と心もとない状況です。ただし、「3 時間以上」「2 時間以上」の回答が九パーセントとなっており、授業内容に予習と復習を求めるものを盛り込み、この数値の向上を図りたいと思います。

以 上